

## 中国人は、「民族より文化」を優先する

陽光新聞社・顧問  
塩澤宏宣

中国は多民族国家です。56の民族の集合体ともいいますが、漢族が92%と圧倒的に多く、残りの1割弱が55民族になります。ちなみに1,000万人以上の民族はチワン族と満族だけです。中国では少数民族問題はタブーで、一般的には中華民族というくり方をします。

歴史書を読むと、黄河流域(中原)で古代文明を築いた人たちを漢族といい、やがて周辺諸民族(東夷・西戎・南蛮・北狄)をいつの間にか漢族に巻き込んでいる、とあります。私たち日本人にとって「中華民族？」はしっくり

しません。元(蒙古族)や清(満族)ばかりでなく、中国を最初に統一した秦の始皇帝も西戎民族という説もあり、隋・唐の王朝も鮮卑といわれています。王朝を築いた民族が多様であれば民族にこだわることはあまり意味の無いことで、「民族より文化」というのは当然かもしれません。

度々利用しますが、王敏さんの著書「中国人の愛国心」によれば、「元は中国文化を無視したから奸夷(敵)であり、清は伝統文化を利用・保護したから味方だ」といいます。続けて「日本は侵略し、中国文化を軽視したから奸夷(外国に対する最大の蔑視)だと中国人が思っている」と述べています。

過日、私が顧問をしている北京企業の社長(友人)が70歳を越えた今、塩澤さんは何を考えているか？という問いがありました。私はその問いに対して、孔子様の教えに従って生きてきたか否かを反芻していると、論語の一節で答えました。そのときの社長の腰を抜かさんばかりの驚きを今でも覚えています。皆さんご存知と思

いますが、念のために記してみます。

「……四十而不惑、五十而知天命、六十而耳順、七十而從心所欲、不踰矩」

この意味するところは、……四十で判断に迷いが無くなった(不惑)。五十で天が与えた使命がわかった(知命)。六十で人の言葉が素直に聞けるようになった(耳順)。七十で自分の思うとおりに行動しても行過ぎることが無くなった(従心)。



中国は、日本の「歴史問題」を非難していますが、ここにも認識に大きなズレがあります。

私の経験で恐縮ですが、歴史の勉強は苦手でした。勉強する範囲は大学受験のためでした。入試問題が想定される場所だけを覚えておけばいい、でした。

最近、「歴史問題」とは何か？について勉強を始めましたが、中国が問題視するのは日清戦争以降から終戦までの約50年間のようです。

再び私事ですが、父は戦前の職業軍人で中国・満州が専門でした。終戦後10年間、旧ソ連に抑留されて帰国後のある日、「中共(当時の呼称)とは国交がないが、やがて仲直りするときに来る。その時はお前たちが先頭に立て」と言われました。

定年退職後、私が中国留学生OB(卒業後日本で働いている)を指導したこともその一環ですが。彼らは一様に「日本文化」を賞賛します。私はその際いつも言ってきたことは「日本文化のルーツは中国にある」と説教していたことを思い出します。

今改めて「論語」を初め、「孫子」「三国志」…最近諸子百家等々を濫読していますが、そこで感じることは「中国の歴史」と「日本の歴史」には規定に大きな違いがあるということです。

中国の歴史書は事実の記載にプラスして「編者の主観」が入ることです。史記から始まる膨大な歴史書は皇帝が入れ替わった場合、次の皇帝が

前の時代を書く慣わしでした。権力を奪い取った者が前皇帝のいい事を書くはずはありません。つまり、中国では歴史を記述する「ひと及びそれを認める時の皇帝」ですが、問題は、歴史を記述するに当たっての誤認識がそのまま継承されて行くことです。このような歴史の記載のありようは現代にも修正されずに続いています。

中国の愛国教育の方針に基づく「教科書」には多くの誤った記載があります。これらは留学生の指摘で分ったことですが、彼らも来日し、勉強を始めた瞬間にビックリしたことです。

一方、日本でいう歴史は史跡・遺物などの証拠を前提にした事実を述べ、評価はしません。上記の事実だけでも、日中の歴史観に相違があることが判りますし、中国の歴史観の中に誤認識による事実が紛れ込んでいる事が理解できると思います。

顧問をしている陽光新聞は創立11周年を迎えています。長年にわたってコラムを書いています。今年から「兵法三十六計」を始めました。昔の兵法を現代ビジネスに置き換えるとどうなるか、という視点です。以前は「論語」と「孫子の兵法」を書きました。論語では現代政治を、孫子の兵法では現代ビジネスの絡みを書きました。毎回わが身を振り返ると昔の中国の偉人はすごい業績を残したものだと思心するばかりでした。それも毛沢東による文化大革命で全てが否定されました。日本における明治維新や終戦時と同じ様に。

今、世界はニッポンブームと聞きますが、ブームはやがて消えてゆく運命を意味します。そうならないようにするために「日本の文化」として国民が自覚し、育成・定着させる必要があるのではないのでしょうか。

中国は現在、軍事力で威嚇し、カネで味方に引き入れようとしています。一方国内を見ればマダマダ貧しい農民たちがいっぱい溢れています。GDP世界第2位なんて誇っていますが、1人あ

たりのGDPはどうか？誇り高い中国人ですから「文化の力」を自覚すればカネはいらないし、元々ベースには素晴らしいものがあるのですから…台湾に行くたびに故宮博物院に行きましたがその素晴らしさには圧倒されたものです。さすが蒋介石！です。

中国が本当に文化に目覚めれば、手ごわい相手になるでしょう。中国はあの文化大革命によって世界に誇る中華文化を否定し、破壊してしまいました。その文化大革命が終了して40年近く経過しました。「文化力」は「軍事力」より強いことは論を待つまでもありません。

中国人が自国の伝統文化の価値を再認識して中華文化再建をはかれば、やがて世界の目は「脅威から感嘆の目」に変わるでしょう。経済の発展でゆとりが出来れば「文化力」がつくことは日本が証明しています。日中文化競争の時代が早く来るよう念願して止みません。

#### 【付記】

昨今の日本観光についての報道には、いささか疑問があります。中国人観光客が大量に「炊飯器」を買ったなどなど。中国人をカモのように扱う語調です。それらの品々はすぐれた製品だから人気があるのですが、なぜすぐれているのか、それは日本人のきめ細かい心配りやおいしさを追及しようとする探究心があるからです。その気持ちは歴史を遡れば、遠い昔の祖先に行き着きます。いい製品を作る基盤には、こうした日本の歴史文化があるからである、ということまで報道する側は考慮して欲しいと思うのですが。そうしたことが中国人に理解されれば、買う人たちも「文化という付加価値」を理解してくれるでしょう。そして、やがては自分たちの文化を掘り起こし、いいモノづくりに励むようになる。そうしたきっかけが日本に来る中国観光客の真のオミヤゲになるのではないのでしょうか。